

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102459
法人名	医療法人社団 護洋会
事業所名	グループホーム 高橋クリニック
所在地 (電話番号)	〒502-0849 岐阜市栄新町3丁目100番地 (電話) 058-232-2122
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成20年6月9日

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	3 ユニット
職員数	29 人
利用定員数計	27 人
常勤	11 人
非常勤	15 人
常勤換算	7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火 造り
	3 階建ての 1 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(100,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,130	円	

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋クリニック ・ 平野総合病院 ・ 岐阜中央病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岐阜市のマンション等の住宅、商店の中にあり、母体は同じ敷地内のクリニックで、クリニックに受診している方や家族、地域のニーズに応じて設立されたホームである。また、併設のデイサービスもあってこれらが連携してサービスを提供している。このホームのケアの特徴は医療度の高い利用者や終末期の利用者に対する積極的な受け入れとケアの充実である。常勤の看護師が各ユニットに配置されていることや利用者のかかりつけ医との連携もよく、家族からの安心感と信頼が大きい。ホーム内は清潔感を感じられるものの家庭的な雰囲気がもう少し欲しいところである。このバランスを取ることで、地域の要望に応え続けられることが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>日常的な外出支援、鍵をかけないケアの実践は安全を考えながらも実践できることを模索している。安全を最優先にしたケアの取り組みに変化はない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、自己評価や外部評価の意義や目的を理解しており、職員に説明すると共に、職員全員で自己評価を作成している。また、運営推進会議にも自己評価や外部評価をテーマにあげ、説明と報告をして意見等をもらっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に自己評価や外部評価をテーマにあげ、説明と報告をして意見等をもらっている。会議録が整備され、会議に参加者全員からの意見や要望並びに助言等が活発に交わされている。出された意見や要望、助言は、職員で協議検討し、ホームの運営に反映させている。医療を中心とした支援に重点を置いており、市役所担当課とは、運営推進会議の他にも、開設時から相談にのってもらっている。特に他のグループホームで受け入れるのが困難な利用者等についても協議し、運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会が多く、その面会時を捕らえ、家族に本人の近況、健康状態、金銭管理状況など報告し、話し合いの時間を持っている。また、面会が少ない家族には、ホームの便りやその時々暮らしぶりを書いて送り、連絡を取っている。運営推進会議では家族の代表からも意見や要望を聞いている。また、苦情や意見が出しやすいように、入居時や面会のときに分かりやすく説明を繰り返している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設の周辺が住宅やマンション等で、地域住民とのつき合いに悪戦苦闘しているが、代表者の地域に貢献したいと言う心が職員も周知されており、地域の行事に積極的に参加している。また、施設で行う夏祭りや餅つき等の行事に、老人会を通して地域住民の参加を呼びかけて一緒に行事を行い、楽しんでいる。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「地域に密着した医療と介護」は、代表者が地域に貢献したいと言う、強い意思が良く現れている。クリニックの患者やその家族からこの地域にも、認知症関係の施設があればという要望に答えて開設したホームである。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、代表者の意思を踏まえた理念を理解し、特に医療度の高い利用者を中心にした支援を行っており、本人や家族に安心感と信頼感を与えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺が新興住宅やマンション等で、地域住民とのつき合いが悪戦苦闘しているが、代表者の地域に貢献したいと言う思いは職員にも周知されており、地域の行事に積極的に参加している。また、施設で行う夏祭りや餅つき等の行事に、老人会を通して地域住民の参加を呼びかけて一緒に行事を行い、楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価や外部評価の意義や目的を理解しており、職員に説明すると共に、職員全員で自己評価を作成している。また、運営推進会議にも自己評価や外部評価をテーマにあげ、説明と報告をして意見等をもっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。会議録が整備されており、会議の参加者から意見や要望並びに助言等が活発に交わされている。出された意見や要望、助言は、職員で協議検討し、施設運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	医療度の高い利用者の支援に重点を置いており、市役所担当課とは運営推進会議の他にも開設時から相談に乗ってもらっている。特に他のグループホームで受け入れ困難な利用者等についても協議している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多く、その面会時を捕らえ家族に本人の近況、健康状態、金銭管理状況など報告し、話し合いの時間を持っている。また、面会が少ない家族には、ホームの便りやそのときの暮らしぶりが分かるようなコメントを書いて送り、連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前に家族会があり、そこから出される意見や要望等を運営に反映させていた。今は、運営推進会議で家族の代表から意見や要望を聞いている。また、苦情や意見が出しやすいように、入居時や面会のときに分かりやすく説明を繰り返している。意見箱や第三者委員2名いることも話している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームは家庭的な環境での支援という思いで入職した職員は、思いの違いで辞めていくことがある。管理者は、職員が異動することにより、利用者が混乱することを十分理解しており、異動があるときは特に注意を払い支援にあたっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療度の高い利用者のケアを重視したホーム運営をしており、看護師等熟練した職員が多い。基本的にはOJT(職場での実践を通しての教育)で行っているが法人内の理学療法士や歯科衛生士にも協力を得て実施している。法人外の研修も参加させている。しかし、研修後の伝達講習等で皆に共有が図られていない。	○	サービスの質の向上には職員の教育は不可欠で、現在の取組みは評価できるが今後、研修計画を作成し、職員の研修を計画的に進めることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会議や勉強会を通して交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスに来てもらうことやホームのショートステイの利用(最大2週間)によりホームの利用者と馴染みになってからのホームの利用となるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝職員の顔を見て、「どうしたの、風邪？」産休後の出勤で「きれいになったね」などの声かけする利用者もいて、職員と利用者はともに過ごしている感覚を持ち、気持ちを通わせている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は毎朝3ユニットの利用者全員の様子を見て、利用者に声を掛け、今日の過ごし方について本人の意向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1回見直ししている。ケアマネージャーが中心となって朝のミーティングで利用者一人ひとりのケアについて検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の検討では解決とまらない状況の変化が生じた場合は家族、医師等と話し合い、計画の変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望すれば併設のデイサービスの利用もできる。利用者の多くは利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は高橋クリニックの医師が主治医である。いままでのかかりつけ医を持っている利用者もいるが事業所との連携はとれ、利用者の把握はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書で終末期に関するホームの方針を明記し、サービス利用時に家族と確認している。開所当初から終末期の受入れを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で一人ひとりが尊厳ある姿を具体的に表現できる様、職員全員の理解のもとで支援されている。日々の記録等はプライバシーに配慮した取り扱いをしている。デイサービスに行っても水分、排泄等のチェックができるものとし、様式等を変えてプライバシーの配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の1日のスケジュールはあるが一人ひとりのゆったりとした時間を大切にしている。日々のレクリエーションや、併設のデイサービスに参加を促したりして、毎日が楽しくすごせる様支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士による献立方法を取り、調理は指定の惣菜店で行う形である。ユニットごとに個別に盛り付けたり、その人に合わせて卵焼きやおかゆを作るなど、食事形態の工夫することもある。職員も一緒に食事をしているが、他方で居室の掃除機をかけている場面がみられた。	○	食事は利用者の大きな楽しみの一つである。食事を中心にいろいろな会話で関係も深まったり生きる喜びにもつながると思われる。時には一緒に準備したり、季節の話をして共に味わったりする良い機会としてケアに繋げていくことを希望したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全面を考慮し入浴日・時間は決まっているが、ゆったりと一人ずつ入浴を楽しめる様支援している。体調に合わせて、足浴、手浴、デイサービスでの特別浴槽の利用等を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の力を発揮できることを考え、行事の案内を墨で大きく書く役割があったり、コップ洗い、雑巾縫い、絵手紙、ぬり絵等楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	安全を考慮して外出は家族の付き添いで行っている。最近は理学療法士が歩行訓練を庭で行ったりして外に出る機会が以前より多くなった。また、別棟にあるデイサービスを利用する為に外出したり、庭にある野菜、花を見る為に戸外に出かけられる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は施錠による利用者の拘束感を理解しているが現在は安全を考慮して施錠している。玄関と居間の出入り口にあるガラスドアは施錠しているが玄関のガラス張りのドアは開放して圧迫感をなくすよう配慮している。家族等の訪問者は居間にいる利用者が見え、気軽に入れる様になっている。又、一人ひとりの外出の傾向を把握し、声かけ等で工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の初期消火、避難訓練、通報訓練等を行っている。飲料水等の備蓄もクリニックの倉庫に人数分の3日分は確保出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の元で個々の栄養摂取、水分確保の支援も個々の記録等で、職員全員が把握している。気軽にお茶が飲める様に各階に用意されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの共用空間は不快な臭いもなく採光にも配慮があり、利用者と共に作成した季節感のある作品が壁に貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みの時計や写真等を家族と相談の上持参してもらい、本人が居心地よく暮らせる様支援している。		